<認知症対応型共同生活介護用>

評 価 結 果 報 告 書

事業所番号	4678900194
法人名	インターナショナル・ホスピタルサービス株式会社
事業所名	グループホーム　美笠
訪問調査日	平成 21 年 8 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人　社会保障制度活用支援協会

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年9月9 日

【評価実施概要】

事業所番号	4678900194
法人名	インターナショナルホスピタルサービス株式会社
事業所名	グループホーム　美笠
所在地	鹿児島県奄美市笠利町中金久113－1 （電　話）0997－63－2200

評価機関名	特定非営利活動法人　社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年10月 5日

【情報提供票より】（平成21年7月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16　年　12　月　8　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　　9　　人
職員数	8　　人	常勤　8　人，非常勤　　人，常勤換算　8　人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋　　造り
	階建ての　　　階　～　　　　階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	10,000　　円	その他の経費（月額）	3,000円 （光熱費）
敷　　金	無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　300　円	昼食	300　円
	夕食　300　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　　円		

（4）利用者の概要（7月31日現在）

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護1		名	要介護2	1	名
要介護3		5　名	要介護4	2	名
要介護5		名	要支援2	1	名
年齢	平均	88.4 歳	最低　80 歳	最高	97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	笠利病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

奄美空港から20分くらいでさとうきび畑と海に面した笠利町がある。笠利病院の敷地に建てられている゛美しい笠利゛こと「美笠」である。職員は、一人ひとりの思いを大切にすべての事を一緒に考え共に生活してゆきます。という理念を中心に支援している。地域も協力的で受け入れてくれていると共に、家族会も積極的に活動されており、家族会では全家族参加し、畑作りや苗植え、清掃活動に取り組んでいる。利用者一人で自宅に戻っても、病院の職員、地域の方々が声をかけ見守りしてくれるなど、利用者の普段どうりの生活が自然に営まれることを、地域が支えてる様子が窺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価結果については、ミーティングで報告し職員と話し合って改善に取り組んでいる。理念については、従来の理念に加え、地域密着型サービスがわかるようにサブタイトルを加え、パンフレットにも理念を記載し新しく作り変えている。重度化や終末期に伴う方針の共有では、事業所としの方針は口頭で伝えているが、文章化は検討する段階で継続中である。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

ミーティング時に自己評価の職員のケアに関する項目について、どのような内容をおこなっているか話し合い出された職員の意見を管理者がまとめている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

会議は、前もって日程を組み入れているため、定期的な開催が行なわれている。討議内容は、事業所の状況、利用者の状況、行事・交流の活動状況を報告し参加者の意見交換を行なっている。家族会の会長、副会長が地域代表として会議に参加されているため、地域の行事への参加や地域で困っている方の情報、家族会の要望も聞くことができ、運営に良い影響を与えている。行政の取り組みも知る機会となっている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

運営推進会議や春と秋、年2回の家族会等で家族の意見を表す機会を作っている。特に今までに、苦情や意見は上がっておらず、秋植えの家族会は全家族が参加して畑作業を行なってくれるなど協力的である。面会時の家族の要望は、申し送りノートに記載し、話し合った内容についても共有している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域の方が入所されていることもあり、近隣の方から野菜や果物を頂いたり、八月踊りもホームに来てくれて、利用者と一緒に踊ったりしている。中学校の職場体験、地域の子供達の島唄のボランティア受け入れ、出身地域での敬老会に参加するなど地域での交流に努めている。

評 価 結 果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の改善課題としてしてあげられたので、職員と話し合い、理念のサブタイトルとして「地域に溶け込み交流を深め、共に生活してゆきます。」という地域密着型サービスをふまえた内容を付け加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に理念を唱和し意識付けを行なっている。利用者が自宅にいるように、友達が遊びに来てくれたり、自宅に戻って帰るときには送ってくれたりと地域と溶け込むように、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方々が、季節の果実や野菜を届けてくれる。利用者の出身集落の敬老会に参加したり、中学校の職場体験の受け入れ、無病息災・豊作祈願を兼ねた八月踊りには、地域の子供も大人も来てくれ、利用者も一緒に踊り交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果については、職員会議や運営推進会議などで報告されている。改善できるものは、職員と話し合い改善している。自己評価については、職員のケアに対する内容について、職員の意見を聞きながらまとめている。	○	職員は、評価を行なう意義を理解して取り組んでおられるので、今後は職員一人ひとりが評価に関われる工夫と、自己評価や外部評価の改善課題について取り組みの記録を残される事を期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は開催日を決めているため、定期的な開催となっている。討議内容は、利用者の状況、行事・交流の活動状況を報告した後、参加者の意見交換を行なっている。家族会の会長、副会長が地域代表のため、家族の意向や地域で困っている方の情報を知ることが出来、行政の取り組みも確認できる機会となっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を取り合い情報交換に努めている。今年度は、市町村と連携し認知症サーポーター養成講座を開催するにあたり、キャラバンメイトとして参加する予定になっている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当者が身体状況(血圧・体温・体重)介護状況（食事・入浴・排泄・睡眠）と日頃の様子を記し、スナップ写真を添えて毎月家族に送付している。職員の異動は、管理者が報告している。「美笠便り」は年4回発行している。金銭の預りをしている方には、金銭出納伝票と領収書を添えて送っている。		
8	15	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や運営推進会議、面会時等に意見を表せる機会を作っている。特に苦情や意見は上がっておらず、秋の家族会は全員参加で苗植えを行なってくれるなど協力的である。面会時にも職員に話しやすい雰囲気作りを指導している。家族からの要望があった時には、申し送りノートに記載し共有している。		
9	18	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職があった場合には、引き継ぐ期間を10日ぐらいとるようにし、利用者が戸惑うことがないように配慮している。家族にも説明し、特に居室担当だった家族が不安にならないように話し合っている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力病院の院内研修の年間計画が立てられており、安全管理・栄養・褥瘡・感染対策などの委員会に参加した場合や外部研修に参加した時など、、職員会議で報告し資料を閲覧できるようにしている。	〇	職員の、個別対応や柔軟な支援が求められる地域密着型サービスの実践力を見につけていくためにも、段階的に力をつけていけるような、事業所としての研修の年間計画をたて、職員の質の向上に努められることを期待します。
11	20	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島GH連絡協議会に加入し、管理者・職員の研修にも参加し交流している。同じ系列のグループホーム3箇所と利用者を交えた交流をしているが、職員の相互訪問の計画を立てているところである。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所にあたり本人に納得してもらえるように、家族から説明してもらい見学にきてもらうようにしている。見学では、レクレーションに参加して雰囲気を感じてもらい、不安なく入所できるように取り組んでいる。入所後は、同じ集落の方の隣に席をおき、職員の見守りや観察を密にしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「私たちの先輩」という意識を持ち、目上に対する言葉遣いで尋ねることを大切にしている。畑作りや郷土料理、集落の行事など、教えてもらっている。利用者のお客様をもてなす姿勢には感心させられている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の会話、行動、表情から本人の思いを把握するように努めている。意思疎通の困難な方は、家族からの情報と、居室担当者の気づきで確認している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族には、担当者会議に出席してもらえるように前もって連絡しているが、難しい場合には電話で意向を確認している。介護計画書は、主治医の意見を確認し、居室担当職員の気づきと本人、家族の意向を反映したものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は毎日サービス内容について、出来ているかどうかをチェックしているので、1ヶ月に1回モニタリングを行い、3ヶ月ごとの見直しを行なっている。状態変化があった場合には、家族や関係者と話し合い見直しをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の敷地内にある利点を活かし、医療処置を受けながらの生活支援ができる。また、病院受診や墓参りなどの移送サービス、外泊支援など柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の納得のうえで協力病院をかかりつけ医としている。他科受診については、協力病院と連携を図り、適切な医療が受けられるように情報を交換している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に対し、急変時の対応については、主治医の意見に従いますということを口頭で伝えている。重度化した場合は、関係者と話し合って決定することになっている。	○	重度化や終末期の対応について、関係者や職員と十分協議したうえで、事業所としての方向性を示されると共に、重度化に伴う意思確認書を作成し、家族からの同意を得られることを希望します。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時には、守秘義務についての誓約書を交わしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねる声かけや言葉遣いになっていないか、職員会議の中で繰り返し指導し、徹底させている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な１日の流れがあるが、体調に合わせ起床時間をゆっくりしたり、食事時間をずらす方には、事務室で食してもらうようにしている。晩酌や喫煙にも対応できるが今はいない。夜シャワーしてから休まれるなどそれぞれに応じて支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で一緒に収穫した野菜を中心に利用者とメニューを決める。利用者には、力量に応じて皮むき、お茶の準備、片付け、茶碗洗い、お盆拭きなどおこなってもらい、職員と同じテーブルを囲みながら楽しく食事ができるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は最低でも入ってもらうようにしている。設定日以外でも希望があればいつでも入る事ができる。拒む方については、仲の良い利用者と一緒に入ってもらったり、職員が同伴して入るなど工夫している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のリーダー的存在の方が、食事の役割分担を決めている他、洗濯物たたみや掃除は自分でしてもらっている。年間行事をたて毎月楽しみごとの場面作りをしている。馴染みの島唄を流し、特技の生花をしてもらったり、2～3名づつドライブに連れて行くなどの気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関前にベンチが置かれていて、季節によって日光浴、夕涼みなど行なっている他、散歩、畑の手入れ、歩いて自宅に戻り仏壇に手を合わせてくる方など、いつでも戸外に出かけられるよう支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに職員の見守りで、自由に出入りできるようにしている。外出傾向の利用者のパターンが決まっていて、地域の方の見守りと協力が得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防避難訓練は、1回は病院と合同で行い、もう1回は事業所独自で行っている。夜間想定の避難訓練は、病院職員の協力をもらう設定で行なう予定にしている。法人から、近隣住民や消防団への協力を依頼している。	○	さまざまな災害を想定した避難訓練の自主訓練を増やし、職員が自信を持って対応できるように備えていかれることを希望します。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量は把握しており、水分補給で食後にゼリーを提供している。1ヶ月に1回体重を測定し変化に対応している。栄養バランスは、食事バランスチェツク表をつけ、時々、法人の栄養士からアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールからは、家族会が植えてくれたバナナやびろうの木、菜園などが眺められる。対面式のキッチンから、料理の臭いがし、ホールや廊下にはソファが置かれ、思い思いの場所で過ごしている。七夕飾りが玄関に飾られ、旧暦のお盆が近いことを利用者は認識している。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	セミダブルのベッドは備え付けとなっている。寂しがる時に職員が添い寝するのに丁度良いサイズである。危険防止のため床にマットを敷いて休む方もいる。居室入り口は、奄美の植物の写真と名前が書かれ、ソファ、タンス、ドレッサー、衣装ケース、写真などが持ち込まれその方らしい居室となっている。		